

名古屋市生徒会サミット 2024

第2回 中学生の祭典「チュー祭」

実施報告書



日時：2024年12月7日(土)・8日(日)10:00～17:00

場所：久屋大通公園エンゼル広場

主催：NPO 法人教育支援協会東海

共催：名古屋市教育委員会

後援：名古屋市立小中学校校長会

名古屋市

公益社団法人名古屋青年会議所

目次

ごあいさつ	2
名古屋市生徒会サミット 2024 第2回中学生の祭典	
「チュー祭」 開催要項	3
タイムスケジュール	6
これまでの経緯	8
売り上げ等について	8
第2回チュー祭の全貌	9
能登応援企画	9
輪島塗 沈金体験・箸販売	10
能登特産品販売	10
輪島&名古屋 中学生熱議（発表と感想）	11
1 班	11
2 班	12
3 班	13
4 班	14
5 班	15
防災 1000 言	16
缶パン	16
お楽しみ会	17
名古屋市内散策	18
モーニング	19
チュー祭弁当	19
アフタヌーンティー	21
有松鳴海絞り体験	22
ねじ式さんと語るボーカロイドの魅力	22
クイズショー「第2回名古屋市検定」	23
○×クイズ	24
名古屋名所すごろく	24
アドバルーン	25

鳴子台中学校 創作クラフト展示	25
有松中学校 生徒会活動報告	26
浄心中学校 生徒会活動報告	26
志賀中学校 合唱パフォーマンス	27
本城中学校 ジャズオーケストラ	27
桜花学園高校 ハンドベル演奏	28
菊里高校 書道パフォーマンス	28
至学館高校 ダンスパフォーマンス	29
昭和高校 ダンスパフォーマンス	29
サウスウインドオーケストラ 演奏	30
実行委員有志 陸前高田市絆交流参加報告	30
中学1年 Taichi さん ギター弾き語り	31
実行委員第1期生にしーの言葉	31
総合司会	32
キャップ回収ゲーム	33
アンケート式ゴミ箱	33
カイロ配布	34
クラウドファンディング	34
交渉班	35
広報班	36
設営・プログラム班	37
連携担当班	38
来場者アンケート	39
来場者アンケートの結果	39
ご講評 名古屋市教育委員会教育長 坪田知広氏	41
ご講評 京都芸術大学客員教授 寺脇研氏	41
実行委員まとめ（ふりかえり）の会	42
名古屋市会正副議長懇談会	46
【協賛企業・協賛店】（順不同・敬称略）	48
おわりに	49
報告動画	50

ごあいさつ

2015年の名古屋市生徒会サミットの熟議の中から生まれた中学生の祭典「チュー祭」は、2021年に第1回を開催し、2024年12月7日・8日の日程で第2回を無事終えることができました。これもひとえに名古屋市教育委員会をはじめ地元企業並びにご支援いただきました皆さまのおかげです。主催者を代表して心より御礼申し上げます。



第2回「チュー祭」では、実行委員の中学生たちから、「ぜひ能登を応援したい」との強い要望が沸き起こり、輪島市より3中学校の生徒25名の皆さんと、能登の特産品を扱う事業者の皆さまをお招きすることができ、名古屋の中高生たちと輪島の中学生の皆さんの交流の場が生まれました。今回のテーマは「つながり」。今後、名古屋の実行委員たちも輪島の中学生の皆さんと「つながり」を持ち続けたいと願っています。

私たち大人は、中高生を中心としたチュー祭実行委員たちの意志を尊重してあくまで後方支援に徹してきました。不安感が蔓延している現代社会において子どもたちは様々な視点で社会課題をとらえています。「利他の精神をもって地元名古屋に貢献する」をモットーに活動する名古屋市生徒会サミットでは、子どもたち自身が社会課題をとらえ、自分たちでも何か貢献したいという思いで熟議を繰り返してアクションを起こしています。

今では第1期生は社会人になっていますが、OB・OGの大学生、高校生たちが現役の中学生たちを陰ながら支えてくれています。

名古屋市生徒会サミットは、学校の垣根を越えて異年齢で集まり互いに切磋琢磨する、学校や家庭以外の「第3の居場所」でもあります。

自分たち自身で高まり合える「場」さえあれば、子どもたちは自力でどんどん成長していきます。これからも、地元名古屋を盛り上げたいと思っている中高生たちの「場」である名古屋市生徒会サミットを継続してまいります。

今後とも皆さまの変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

NPO 法人 教育支援協会東海

代表理事 本多 功

名古屋市生徒会サミット 2024 第2回中学生の祭典「チュー祭」 開催要項

- 名称：名古屋市生徒会サミット 2024 第2回中学生の祭典「チュー祭」
- 日時：2024 年 12 月 7 日(土)・8 日(日) 10:00～17:00
- 場所：久屋大通公園エンゼル広場（名古屋市中区栄3丁目）
- 主催：NPO 法人教育支援協会東海（名古屋市中区南川町 297 番地 TEL 052-505-4900）
- 共催：名古屋市教育委員会
- 後援：名古屋市立小中学校校長会 名古屋市 公益社団法人名古屋青年会議所
- 協賛：地元企業サポーター数十社
- 趣旨：中学生の祭典「チュー祭」は、名古屋市の中学生たちが主体的に当イベントを開催する。
実行委員は、中学生の時から実行委員会に所属し、長い年月をかけてこの一大イベントを企画運営する。その経験をもって未来を担うグローバルリーダーに必要な素地を培う。
- 参加について：
 - 名古屋市生徒会サミット実行委員 42 名（中学生 12 高校生 22 大学生 7 社会人 1）
 - 名古屋市の中学生 多数（全中学校に案内しています。）
 - 輪島市立輪島中学校・門前中学校・東陽中学校 27 名（中学生 25 引率教員 2）
 - 石川県能登半島の地域の方々
 - 名古屋市の地域住民
- 【ステージ発表(学校)】
有松中学校生徒会執行部 浄心中学校生徒会執行部
志賀中学校合唱部 本城中学校ジャズオーケストラ部
桜花学園高校ハンドベル部 菊里高校書道部 至学館高校ダンス部 昭和高校ダンス部
- 【展示発表】
鳴子台中学校創作クラフト部
- 【ステージ発表(個人・地域)】
名古屋市立中学校 1 年 濱口太一さん サウスウインドオーケストラ 実行委員有志
- 【ゲスト】
ボカロ P ねじ式氏 名古屋おもてなし武将隊「徳川家康」氏 京都芸術大学客員教授 寺脇研氏
- 【来賓】
名古屋市教育委員会教育長 坪田知広氏 他
- テーマ：『つながり』
 - 1 日目スローガン『能登とつながる、未来へつなぐ。』
 - 2 日目スローガン『冬の寒さを吹き飛ばす名古屋愛』

■内容：

1. 名古屋市の中学生在が主体的に祭りを企画運営し、全国へ発信する。
2. 被災した能登半島を応援する。
1日目は、名古屋市の中学生と輪島の中学生在がともに「防災」や「復興」に向けたアクションプランを作成して発表する。チュー祭後も互いに実践し交流していく。
現地の特産品や輪島塗のブースを設け、能登の魅力を発信する。
3. 地元名古屋を盛り上げる。
2日目は、地元名古屋の企業に協力を仰ぎ、名古屋の食文化や伝統文化のブースを設け、名古屋の魅力を発信する。
ステージ発表では、名古屋市の中学校、高校の部活発表や、名古屋市で活躍する多くの
人たちとともに祭りを大いに盛り上げる。

■主なプログラム：

1. チュー祭弁当販売

矢場とん・あつた蓬莱軒・矢場味仙・まるは食堂・スパゲッティヨコイから、おかずをご提供いただき、好きなおかずを選べるチュー祭オリジナル弁当を実行委員が販売する。

1日目の売り上げは輪島市の中学校に寄付する。

2. モーニング販売

ヤマザキパンからあんぱん、スジャータめいらくからコーンスープをご提供いただき、
実行委員が販売する。1日目の売り上げは輪島市の中学校に寄付する。

3. アフタヌーンティー販売

両口屋是清からチュー祭キャラクターを焼印したオリジナル千なり、妙香園からお茶3種を
ご提供いただき、実行委員が販売する。1日目の売り上げは輪島市の中学校に寄付する。

4. 能登特産品販売

石川県の商工会議所青年部連合会の方々にお越しいただき、能登半島の特産品を能登の地域の方々と実行委員が販売する。

5. 缶入りパン販売

5年間保存の効く缶入りパンのラベルに5年後の自分に向けてメッセージを書く。
輪島市の中学生にはプレゼントする。

6. 「今日からはじめる私の防災1000言」企画

来場者1000人に防災への宣言を短冊に書いてもらい、会場に設置するツリーに飾りつけ、
SNSで発信して啓発活動を行う。

7. すごろくコーナー

名古屋にまつわる豆知識やクイズで、幅広い年代の方々が楽しめるブースを設ける。

8. ○×クイズコーナー

名古屋にまつわるクイズで、特に小中学生や幼児も楽しめるブースを設ける。

9. ステージ発表

タイムスケジュール参照

10. ゲストステージ

タイムスケジュール参照

11. 輪島塗沈金体験

七尾市から輪島塗の老舗を招待し、会場で箸の沈金体験と販売を行う。

12. 有松鳴海絞り体験

名古屋の伝統文化を発信するため、会場で有松鳴海絞りの体験を実行委員主導で行う。

13. 名古屋の中学生と輪島の中学生の熟議

名古屋の中学生と輪島の中学生がともにディスカッションを行い、「防災」や「復興」に向けたアクションプランを作成して発表する。チュー祭後はその実践内容を交流し、未来へつなぐ。

■チュー祭開催までの輪島市の中学生との交流：

○11月12日(火)16:30～17:00 輪島市の中学生と実行委員のオンライン交流会①

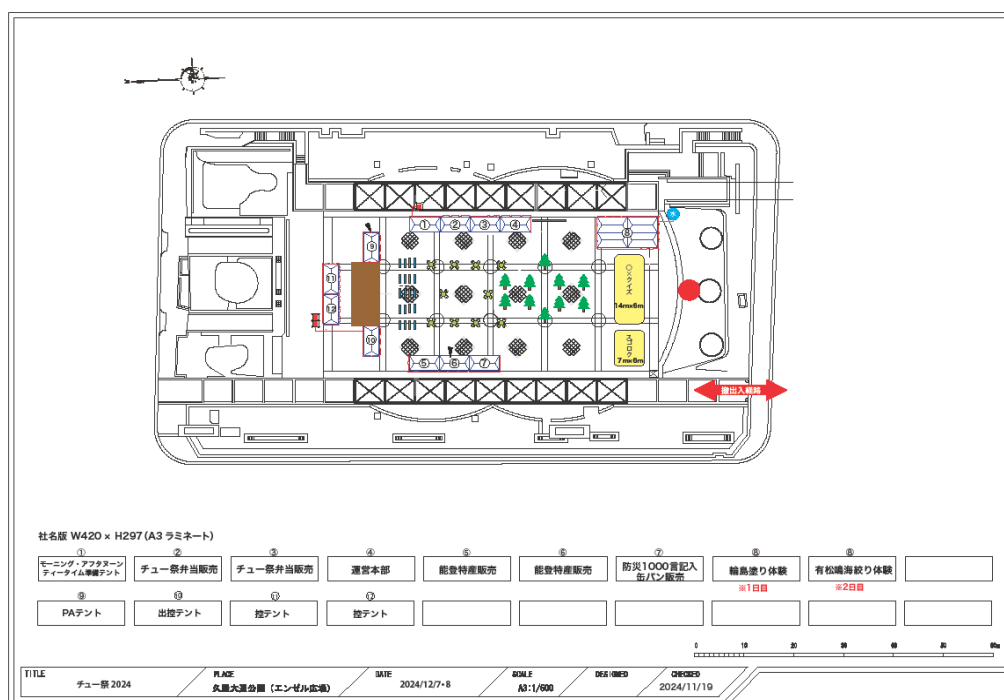
○11月25日(月)16:30～17:00 輪島市の中学生と実行委員のオンライン交流会②

【内容】

自己紹介、チュー祭の紹介、当日の熟議の説明、輪島市の現状について、

輪島市の中学生がチュー祭に期待すること など

■会場図面



タイムスケジュール

【1日目 12月7日(土)】

	ステージ	会場
08:30	実行委員集合	会場準備
10:00	○オープニングセレモニー ・実行委員開会宣言 ・アイスブレイク	輪島の中学生バス到着出迎え アドバルーン打ち上げ シャボン玉とばし カイロ配布(10:30～16:00) アンケート(10:30～16:00)
10:30	BGM	モーニング販売(10:30～12:00) 輪島塗沈金体験・箸販売(10:30～16:00)
11:00	○至学館高校ダンス部 パフォーマンス ○菊里高校書道部 パフォーマンス	能登特産品販売(10:30～16:00) 防災1000言(10:30～16:00) 缶パン販売(10:30～16:00)
12:00	※輪島の中学生と名古屋の中学生と一緒に昼食を楽しむ (会場ガーデンセットにて)	○×クイズ(10:30～16:00) すごろく(10:30～16:00) 鳴子台中学校創作クラフト部 展示
13:00	○有松中学校生徒会執行部 生徒会活動報告 ○浄心中学校生徒会執行部 生徒会活動報告 ○実行委員有志 陸前高田市との絆交流参加報告	(10:30～16:00) チュー祭弁当販売(12:00～完売まで) アフタヌーンティー販売(14:00～完売まで)
14:00	○ディスカッション(熟議・会場) ～名古屋の中学生と輪島の中学生がともに 防災・復興へのアクションプランを作成しよう～	
16:00	○エンディングセレモニー ・熟議アクションプラン発表 ・講評 名古屋市教育局教育長 坪田知広氏 ・お礼の言葉 教育支援協会東海代表 本多功 ・能登半島の地域の方々のお話 ・記念撮影	
17:00	終了 清掃	輪島の中学生バスで移動

18:00～20:00 実行委員(希望者)は名古屋市青少年宿泊センターにて輪島の中学生と交流

※夕食、お楽しみ会、合唱、記念撮影

【2日目 12月8日(日)】

	ステージ	会場
8:30	実行委員集合	会場準備
10:00	○オープニングセレモニー ・桜花学園高校ハンドベル部 演奏 ・実行委員開会宣言 ・アイスブレイク	輪島の中学生は午前中、市内散策 アドバルーン打ち上げ シャボン玉とばし カイロ配布(10:30～16:00) アンケート(10:30～16:00) モーニング販売(10:30～12:00) 有松鳴海絞り体験(10:30～16:00) 防災1000言(展示のみ)(10:30～16:00)
10:30	BGM	缶パン販売(10:30～16:00) ○×クイズ(10:30～16:00) すごろく(10:30～16:00)
11:00	○昭和高校ダンス部 パフォーマンス ○志賀中学校合唱部 パフォーマンス	鳴子台中学校創作クラフト部 展示 (10:30～16:00)
12:30	○クイズショー「第2回名古屋市検定」 —名古屋おもてなし武将隊 徳川家康様	チュー祭弁当販売(12:00～完売まで)
13:00	BGM	13:00 輪島の中学生お見送り アフタヌーンティー販売(14:00～完売まで)
13:15	○本城中学校ジャズオーケストラ部 演奏	
14:00	○ディスカッション(会場) —ボカロP ねじ式さん & 名古屋の中学生	
14:40	○中学1年 Taichi さん ギター弾き語り演奏	
15:10	○サウスウインドオーケストラ 演奏	
16:00	○エンディングセレモニー ・講評 京都芸術大学客員教授 寺脇研氏 ・実行委員第1期生の言葉 ・お礼の言葉 教育支援協会東海代表 本多功 ・実行委員合唱(キセキ) 伴奏: 実行委員 岩瀬美保 ・記念撮影	
17:00	終了 清掃	

これまでの経緯

第1回「生徒会として行える地域貢献」

2013年7月17日(火) 名古屋市教育センター6階研修室 参加者 26校 72名

第2回「生徒会として行える地域貢献 3つのテーマで(防災・環境・いじめ撲滅)」

2014年1月18日(土) 名古屋市立笹島中学校ランチルーム 参加者 17校 70名

第3回「地元を盛り上げるアクションプラン」

2015年9月19日(土) イーブルなごや2階視聴覚室 参加者 16校 70名参加

※この際に、ある班がアクションプランで中学生の祭典「チュー祭」の開催を提案する。

第4回「4つのテーマで熟議をしよう(防災・環境・いじめ撲滅・SNSリテラシー)」

2016年10月29日(土) 御器所ステーションビル5階大会議室 参加者 13校 62名

第5回「4つのテーマで熟議をしよう(防災・環境・いじめ撲滅・SNSリテラシー)」

2017年10月22日(日) 御器所ステーションビル5階大会議室 参加者 11校 59名

第6回「チュー祭を盛りあげよう！(4つのテーマの積み上げをどう伝えるか)」

2018年10月20日(土) 御器所ステーションビル5階大会議室 参加者 8校 35名

第7回「チュー祭を盛りあげよう！(4つのテーマ以外でチュー祭で

やってみたいことを出し合おう！ダイナミックな発想で)」

2019年8月2日(金) 御器所ステーションビル5階大会議室 参加者 19校 65名

第8回 第1回中学生の祭典「チュー祭」

2021年10月16日(土)・17日(日) オアシス21 銀河の広場 来場者 1027名

第9回「身近な課題を解決しよう」

2022年8月20日(土) オーシャンスクエア3階(オンライン) 参加者 6校 15名

第10回「第2回中学生の祭典『チュー祭』に向けてどんな祭りにしたいか」

2023年8月20日(日) 御器所ステーションビル5階大会議室 参加者 12校 33名

第11回 第2回中学生の祭典「チュー祭」

2024年12月7日(土)・8日(日) 久屋大通公園エンゼル広場 来場者約 2000名

売り上げ等について

12月7日(土) モーニング・チュー祭弁当・アフタヌーンティー・缶パン 170,100円

募金箱 10,764円

合計 180,864円

※こちらは、輪島市の中学校3校に寄付させていただきました。

また、チュー祭弁当輪島市27名分、缶パン輪島市25名分はプレゼントさせていただきました。

12月8日(日) モーニング・チュー祭弁当・アフタヌーンティー・缶パン 221,750円

合計 221,750円

※こちらは、チュー祭の運営費に充てさせていただきます。

実行委員が語り継ぐ。 第2回チュー祭の全貌

ー能登とつながる、未来へつなぐ。ー

能登応援企画

【能登を応援したい】

2024年1月1日午後4時10分、能登半島地震が発生しました。私たちに何かできることはないかと、正月から実行委員会のグループLINEでは活発に議論が交わされました。熟議の末に、私たちは第2回チュー祭の1日目のテーマを「能登とつながる、未来へつなぐ。」と定め、能登応援企画が始動しました。

【私たちにできること】

能登応援企画の目玉は、被災した能登の中学生をチュー祭に招待することです。私たちはこれについて何度も悩みました。ぜひとも来てほしいという気持ちがある一方で、それが上から目線のように受け取られるのではないかという不安や、現地の実情を知らない私たちが災害という話題にどこまで踏み込んでよいのかという懸念もありました。しかし、中高生の私たちにできる最大限のことは、チュー祭を通して同じ世代の能登の中学生に楽しんでもらうこと。そう思って、夏休みに輪島市の3つの中学校の校長先生にお電話し、私たちの率直な思いを伝えました。

【輪島の中学生がチュー祭へ】

後はお返事を待つのみというタイミングで、輪島はまたもや災害に見舞われます。9月21日の能登半島豪雨です。輪島の中学校はチュー祭どころではないだろう…。私たちは半分諦めかけていました。



しかし、10月半ばに輪島市の中学校の校長先生からお電話があり、チュー祭に参加したいとお返事をいただきました。そして、輪島市から25名の中学生をチュー祭に招待することができました。こうして生まれた輪島との「つながり」を今回で終わらせることなく、未来へつなぐ。そのために、私たちはこれからも活動を続けていきます。

能登と名古屋が今後もつながれますように
輪島市立東陽中学校

実行委員第9期生/高校1年 中村洸太郎

輪島塗 沈金体験・箸販売 12/7 10:30～16:00

【漆陶舗あらきさんを招くまで】震災の被害に遭った能登の復興の手助けとなるアクションを起こしたい。これが根本にある想いでした。そこから能登の特産品の一つである輪島塗のブースをチュー祭で行えたら名古屋の人の意識向上にもつながるのではないかと考え、ブース設置へ向け活動をしました。



【当日の様子】体験には一日で38人、販売には17人来ていただきました。体験中は女将さんのサポートのもと、老若男女問わず、参加者の皆さんが生き生きとした表情で取り組まれていました。販売でも笑顔で箸を選ばれていました。

【プロジェクトを終えて】体験や箸の販売を通して輪島塗の魅力を感じてもらえ、嬉しく思います。ただ、継続的に広く協力による復興が必要であることも実感しました。また、臨機応変に対応してくださった女将さんを始め自分一人の力では達成できないことも身に染みて感じました。



実行委員第9期生/高校1年 圓地陸来



能登特産品販売 12/7 10:30～16:00

【能登特産品販売につなぐまで】第2回チュー祭の1日目では「能登とつながる、未来へつなぐ。」をテーマに掲げており、私たちの班でも何か能登とつながれないかと思いました。初めはなかなか思い通りに行かないことばかりでしたが、やっとのことで能登特産品販売につながりました。

【当日】能登の方々が出向いてくださり、能登の特産品について教えていただきながら一緒に販売をしました。ネットで調べるだけでは知らない特産品などがたくさんあり、改めて能登の魅力を感じました。また、地震が起こった当初の写真などを持ってきてくださり、その当時どういう状況だったのかを知ることができました。



【これから】能登とのつながりをチュー祭だけで終わらせないように、次の世代や色々な人に今回のことを発信していき、能登に関心をもってもらいたいと思いました。また、能登の特産品の「能登塩ぶるべりばあむ」がすごく美味しかったので、それも広めていきたいと思いました！

実行委員第9期生/高校1年 久納あい

実行委員第9期生/高校1年 中安累菜

輪島&名古屋 中学生熟議（発表と感想） 12/7 14:00～16:00

1 班

【アクションプラン】

僕たちのアクションプランは「地震の実体験や対策についての講演を中学校・高校で行う」です。このアクションプランのメリットについてです。1つ目は、いざとなった時に自分で考えて行動できるようになることです。すぐに避難

しなければならぬとき、自分に余裕がある訳ではありません。そんな時、地震について知識があれば、少しでも余裕を持つことができます。2つ目は、地震の重大さが分かり、自分事として身近に



地震に対応するためには、講演を聞いて、個人で分かるだけでなく、集団で理解する必要があります。そして、万が一地震が来た時に備えて、冷静に対応したり、避難所の把握をしたりすることが大切です。他にも、地震が来た時の家族の合流場所の確認や、ラジオなどの情報源の確保をしておきましょう。

【感想】

私は今回の輪島市の中学生との熟議を通して、実際に経験した人に聞くことで新たな発見があるこ



とを改めて実感しました。輪島市の中学生との会話で親交を深めながら、現在の輪島市の状況や地震を経験していざという時にあると便利なもの、地震が起こった直後の体験などを聞いて、アクションプランを発表することでチュー祭に来ていただいた方々に伝えることが出来ました。自分自身も防災への意識が高まる体験となりました。

実行委員第10期生/中学3年 後藤菜来



感じられることです。地震の重大さは実際に体験していないと分かりません。実際に体験した方からお話を聞くことで、その重大さをリアルに感じられます。更に実体験の方がより具体的なお話が聞けます。3つ目は、中学生は体力があり、活躍できることです。そのおかげで、避難場所の出入口やAEDの位置を確認することができます。



2 班



地震を経験して大切だと分かったことは、家具の固定や火元の確認、避難所・ハザードマップの確認、自転車の施錠です。自転車の施錠はあまり聞いたことのない対策かもしれませんが、実際に地震が起こると自転車が盗難されてしまうことがあります。そのため、普段からしっかり鍵をかけておく必要があります。知識としては知っていても、実際に実行できていることは少なかったもので、今一度みなさんも確認してほしいです。



【アクションプラン】

私たちの班では、私たちができる地震への対策や、能登との今後のつながりについて考えました。用意しておくと思うものは、モバイルバッテリーや携帯トイレ、ライトです。この3つは電気が使えない時に役立ちました。また、1週間分の食料や水、防寒具なども必要だと感じました。



最後に、今後の輪島と名古屋とのつながりについてです。第3回チュー祭で輪島の特産品を販売したり、ステージ発表をしたりして、輪島の中学生が直接魅力を伝える機会を作っていきたいと考えました。また、輪島のイベントに名古屋の中学生を招待して、交流できる場を作るなどして、これからも名古屋と輪島の交流を続けていきたいです。

【感想】

輪島の中学生との熟議では、実際に被害に遭った体験談を聞くことで、防災のためにどのような対策を立てればよいのか理解することができました。その中には、自転車の施錠を普段から行うなど、私たちが普段あまり耳にすることのない対策があり、防災の重要性を改めて感じることで、自分自身も積極的に防災に関わりたいという意識が高まりました。また、今回のチュー祭での交流を機に今後も私たち名古屋の中学生と輪島の中学生との交流を続けていきたいです。



実行委員第9期生/中学3年 三島青沙

3 班

【アクションプラン】

私たちは学校でできること、日常的に対策できること、名古屋と能登の今後のつながりについて話し合いました。学校でできることは、学校のロッカーなどに、ペットボトルの水、食料、防寒具、簡易トイレなどの入った防災袋を常備することです。また、学校では避難訓練を行うと思いますが、机の下に隠れるなどだけでなく、津波が来た時どこに逃げるかなどという訓練も大事だと思いました。生徒数の多い学校では、みんなで防災について情報を共有することが大切だと思いました。そして学校の地図などを覚えることも大切だと思いました。日常的に対策できることは、靴下を履いておく、スマホは 25% を切る前に充電しておく、モバイルバッテリーを使ったらすぐに充電して貯めておく、家具を固定する、割れないお皿を使ったりするなどです。



次に名古屋と能登の今後のつながりについてです。被災地に募金をする、言葉の違いなど互いの文化について共有し、話し合える場を作る、お互いの郷土料理を給食で出すなどで、つながりがより深まるのではないかと考えました。最後に、石川と名古屋の豆知識について話します。私たちの班の中で学校の生徒数にかなり違いがあり、輪島中学校は 260 人、門前中学校は 42 人、東陽中学校は 10 人、有松中学校は 900 人という差にビックリしました。また、言葉にも違いがありました。例えば、石川では曲の 1 番目のことを「1 題目」と言ったり、名古屋では学校の休み時間のことを「放課」と言ったりします。

【感想】

私は最初、同年代とはいえ震災を経験し心に深い傷を負った輪島の中学生とどう関わればいいのかとても不安を感じていました。ですが、熟議をしていく中で輪島の中学生が自分の経験を次につなげてようとしてくれている姿に感動し、自分もいろいろなアクションプランを考えることができました。この熟議を通してアクションプランを考えたとを思い出で終わらせず、次につなげるために今後もこの活動をたくさんの人に伝え、続けようと思います。

実行委員第 10 期生/中学 3 年 吉村虹穂

私は輪島の中学生との熟議をととても楽しみにしていました。熟議に入り、私は地震のことについてどこまで深掘りしていいのか分からないまま会話を進めていたのですが、輪島みんなが積極的に答えてくれたのでとても嬉しかったです。基本的な防災だけではなく、スマホの充電は 25% 以上あった方がいいなど経験したからこそ分かる防災も知ることができました。輪島との今後のつながりについては、学校給食でお互いの郷土料理を出したらどうかという案が出たので、必ず実現したいです。

実行委員第 10 期生/中学 3 年 片岡バイネア明来

4 班



【アクションプラン】

私たちのアクションプランのテーマは「安心」です。なぜこのテーマにしたかという、地震が起きて何が必要だったのか、何をしてよかったのかを考えた時に、被災地で欲しかったものはすべて「安心できるもの」だったからです。私たちは発生から 2,3 日、4,5 日から 1 ヶ月、2 ヶ月から

現在に分けて、能登が安心できたこと、そして名古屋が能登にできることをまとめました。能登で地震が起きてから 2,3 日目は、人脈があることや情報の入手ができるだけでとても安心できました。4,5 日から 1 ヶ月経つとライフラインや避難場所の確保ができて安心できました。2 ヶ月から現在に至ると道路の整備が始まり、安全な生活の確保を得られてとても安心できるようになりました。これから私たちにできることは、また災害があっても安心できる方法を考えることです。



名古屋が被災地にできることとして、発生から 2,3 日は信頼できる情報を発信したり、4,5 日から



1 ヶ月はライフラインの復旧などをするためにボランティアを送ったりすることが大切だと分かりました。2 ヶ月から現在では、支援物資や復興へのボランティア、義援金などです。これからやるべきことは、地域での交流を通して人脈を広げることです。名古屋では埋立地が多く、海に面する区があることから、ハザードマップや避難ルートなどの基本的なことを確認しておくことも大切です。

チュー祭後も私たちのつながりを絶やしてはならないと思ったので、オンラインで防災のことにについて話し合いを続け、交流をしていけたらいいと思います。

【感想】

輪島の中学生との熟議を通して、地震で大変な思いをしたにも関わらず、地震発生から復興をしていくまでの経験を沢山話してくれて、知らないことばかりでした。私たちが必要だと思っていたラジオ、食料、毛布、水などだけでなく、充電器なども必要だと知りました。また、災害はいつどこで起きるか分からないからこそ、普段から防災意識を持つことが大切だと改めて感じました。このように実際に地震を経験した人たちと熟議をすることができて、とても恵まれているなと思いました。この体験を沢山のの人に伝えることができたらいいいと思います。



実行委員第 10 期生/中学 1 年 岸浦 凜奈

5 班

【アクションプラン】

私たちは、輪島が準備してよかったことや名古屋が準備しておきたいこと、改善点などをまとめました。輪島で準備していてよかったものは、水、懐中電灯、防災グッズ、傘、食料などです。輪島で欲しかったものは、水、使い捨てのもの、食料、防寒グッズなどです。分かったことは、ライフラインの大切さです。名古屋の中学生が準備しておきたいことは、非常用持ち出し袋の用意、定期的な避難訓練、家具の固定などです。そして、中学生である私たちが避難先でできることとして、身の回りのご年配や体の不自由な方の手伝いができるのではないかと考えました。輪島と名古屋の中学生の意見の共通点はハザードマップです。家族との避難場所の確認が必要だと思いました。



今回のディスカッションやお正月の地震を通して、改めて共助、互いに助け合うことが大事だなと思いました。輪島の方が名古屋の人に体験したことを伝えたり、名古屋の人がその話を別の名古屋の人に伝えたりして、これからも協力して助け合っていきたいと思います。このチュー祭のような楽しい思い出を作れる機会を今後とも増やしていきたいです。

【感想】

輪島の中学生と熟議をして、輪島の今の状況や地震の対策を知ることができ、地震への対策を考えることができました。また、輪島の中学生には地震で大変だったことや対策できたことを聞くことができ、名古屋の中学生はこれから対策することを話し合い、輪島の中学生にアドバイスをもらいました。これから私たちも実践していきたいと思いました。そして、輪島と名古屋のこれからのつながりについて、輪島の中学生も名古屋の中学生も同じ思いを持っていて、これからも関わりを続けられたらいいなと思いました。とても良い経験ができて、自分の成長にもつながりました。



実行委員第10期生/中学1年 小西真椰



私は輪島の子との関わりを深めるための熟議で、日頃からできる地震の備えのことについて話すことができました。水はとても大切だということ、季節に合った服などの準備が必要だということなどがわかりました。なので、私もこのことを生かしていきたいと思いました。また、他の班の発表を聞いて、準備以外のこともたくさん分かったので、それも取り入れていきたいと思いました。

実行委員第10期生/中学1年 吉見葵

防災 1000 言 12/7 10:30～16:00

【名古屋の防災意識を高めたい】私たちは第 1 回において防災啓発を行っており、今回も来場者にとって防災の意識が高まるような企画を実施したいと考えました。そこで生まれたのが「防災 1000 言」です。防災に対する「宣言」や思いを書いた短冊を、石川県の兼六園の雪吊りを模したクリスマスツリーに飾るというものです。第 1 回の来場者数が約 1000 人だったことから、クリスマスツリーを 1000 人の言葉で彩りたいという気持ちを込めて「防災 1000 言」と名付けました。



【能登の復興を願って】1000 人という目標は達成できませんでしたが、輪島の中学生や引率の先生方にも短冊を書いてもらえたことがとても嬉しかったです。「自分がこれからは輪島に残って復興を助けたい」という中学生の力強い宣言に、深く感銘を受けました。

実行委員第 9 期生/高校 1 年 中村洸太郎



缶パン 12/7,8 10:30～16:00

【購入者の話】缶パンのイメージを伺うことができました。能登地震を経験した中学生は「たくさんの不安がある中、美味しく食べられて良かった」と言っていました。それを聞いて、缶パンは命をつなぐための食料だけでなく、苦しい生活を少しでも安心させてくれるものであると分かりました。

【販売の努力】休憩もせず販売しましたが、1 日目は立ち止まって下さる方も少なく、悔しい思いをしました。そこで翌朝場所を移し、2 日目は弁当を買いに来てくださった方々への宣伝や、中身のパンが見えるような工夫をしました。相手の視点に立つことの重要性を感じる機会となりました。

【防災の重要性を広めるには】若い世代は地震を経験していない人が多く、防災に関心が少ないと私は思います。振り返ると、義務教育の中で非常食について触



れる機会が少なかったと思います。そのため、bungusさんがやっている卒業記念品に缶パンを渡す取り組みはとても学びになることだと思いました。教育や大人の行動が防災の普及につながる大切なバトンとなると感じています。



実行委員第 7 期生/高校 3 年 松尾采音

お楽しみ会 12/7 18:00~20:00 名古屋市青少年宿泊センターにて

【お楽しみ会前】お楽しみ会前には、夕食を一緒にとっていたのですが、実行委員が輪島の中学生の隣を取り合いになったり、互いの赤裸々な話まで語り合ったり、和気藹々としていました。

【お楽しみ会】私は実行委員第9期生の陸来と司会進行を務めさせていただきました。「無事に会を行えるのか」心配も無用で、輪島と名古屋という隔たりも関係ないほどの大盛り上がり。輪島の中学生を引率して下さった先生方にも参加していただきました。私が会で印象的であったのは、最後にみんなで GReeeeN さんの『星影のエール』を歌ったことでしょうか。急遽組んだことでしたが、短い練習時間で歌い上げてくれました。輪島の中学生とのつながりやチュー祭を思うとグッとくるものがありました。



借り人競争の様子



【お楽しみ会を終えて】僅かな時間でしたが、輪島と名古屋をつなぐ絆がうまれたと思います。また、大学生の先輩方によるサポートの下、お楽しみ会を円滑に進めることができました。感謝申し上げます。

実行委員第8期生/高校1年 中島未結



名古屋市散策

12/8 午前 中部電力 MIRAI TOWER・大須商店街にて



【輪島の中学生との名古屋散策】チュー祭 2 日目、大学生実行委員 4 人が輪島の中学生たちとテレビ塔、大須を散策しました。タイトなスケジュールではあったものの、中学生たちは疲れを見せることなく、思う存分楽しんでいる様子が印象的でした。

【大学生実行委員として】チュー祭は中学生・高校生が主体となって動いています。大学生は彼らをサポートする立場として、全体を見ながら適切なフォローを心がけました。その中で、実行委員たちの主体性の成長を確かに感じていました。

【つながりとこれから】中学生から関わり大学生となった今、自分たちの活動は下の世代へとつながっていき、そして今回、名古屋だけでなく輪島の中学生や先生方とのつながりへと広がっていきました。これからも、チュー祭が人をつなぎ成長させる場となることを願っています。



テレビ塔から眺めた
チュー祭の会場

実行委員第5期生/大学2年 岡田明

***** Memories with Wajima *****



一冬の寒さを吹き飛ばす名古屋愛一

モーニング 12/7,8 10:30~12:00

【機械怠惰。冷め切ったコンポタ。】チュー祭当日。僕らはモーニングメニューとしてヤマザキパン様のあんぱんとスジャータ様のコンポタージュを販売しようとしていた。12月ということもあり、コンポタは機械で温めて提供する予定だった。余裕に余裕を重ねて電源を入れる。が、しかし一向に温まる気配がない。そこで焦りを隠しつつ電気ポットでお湯を作ることにした。



【またもや怠惰。まだまだ冷め切ったコンポタ。】その通り。お湯が沸くまでにとても時間がかかってしまうのだ。意味不明。本当に焦った僕らは鍋と石油ストーブでお湯を沸かす方向に舵を切り、ポットと鍋の二刀流でなんとか1日目を乗り切った。

【関わってもらった皆様へ。】本当に感謝しかありません。素晴らしいチームワークに感動させられました。ありがとう。

実行委員第7期生/高校3年 室一盛



チュー祭弁当 12/7,8 12:00~完売まで

【チュー祭弁当とは】チュー祭弁当とは、名古屋めしを詰め合わせたオリジナルのお弁当です。名古屋めしが一つに詰まったお弁当を作って名古屋の魅力を発信したい！という思いから生まれました。



【協賛企業への交渉】チュー祭弁当を作り上げるにあたり、名古屋めしで有名な企業に依頼、そして直接交渉をしました。何件かではお断りをされ、またご承諾いただけたとしても詰めの甘さをご指摘するようなお言葉をいただくこともありましたが、名古屋の魅力を発信したいという思いをお伝えし、5社様からご協賛をいただきました。



【当日の様子】チュー祭弁当の販売テントの前には長い列ができ、大変多くの方に楽しんでいただけました。おかずを選ぶお客さんの嬉しそうな顔や輪島の中学生の美味しいという声を思い出すと誇らしい気持ちになります。

実行委員第9期生/高校1年 竹内大空



***** チュー祭弁当おかず紹介 *****

エビフライ（まるは食堂）



ひつまぶし（あつた蓬莱軒）



みそかつ（矢場とん）



あんかけスパ
（スパゲッティヨコイ）



台湾丼（矢場味仙）

ポッカさんからの差し入れ

2013年から10年以上にわたって名古屋市生徒会サミットを応援してくださっている、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社様から、今年もキレートレモンの差し入れをいただきました。

また、今回は、輪島市の3中学校の全校生徒にもキレートレモンをお送りいただきました。交渉に伺った実行委員もポッカさんのご厚情にとても喜んでいました。ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社様、いつも本当にありがとうございます。

名古屋市生徒会サミット実行委員一同



アフタヌーンティー 12/7,8 14:00~完売まで



【チュー祭ならではのアフタヌーンティー】アフタヌーンティーでは、妙香園さんの3種類のお茶と両口屋是清さんの千なりを出しました。第1回では流行りを取り入れたお饅頭を出しましたが、第2回ではチュー祭ならではのものとして、千なりに「チューはち」と「はちピョン」の焼印をしていただき、第1回とはまた違った良さのあるオリジナルティ溢れるものになりました。



1日目はお湯を作るのに手間取って時間がかかり、お客さんを待たせてしまうこともありましたが、みんなで時間を短縮する方法を考え、2日目はスムーズに行うことができました。

一番印象強かったことは、名古屋の方はもちろんのこと、名古屋ではないところから来た方にお茶や千なりを食べてもらった時のきらきらとした表情です。名古屋の良さやお客さんの笑顔を見ることができ、いい機会になりました。



実行委員第7期生/高校2年 小川叶暖

***** 両口屋是清の紹介 *****



【取材の様子】両口屋是清のお店の方が内容の詳細を答えながら、緊張をしないように気さくに話してくださいました。休憩ではお茶とともに両口屋是清のお菓子である千なりをいただきました。その際、千なりの模様の意味を教えてください、和菓子一つ一つに深い意味が込められているのだと知ることができました。

【取材の内容】両口屋是清には長い歴史があり、季節の感じられるデザインと五感を大切にしています。また、極限まで試行錯誤を重ね、古くからの文化を大切にしつつ新しいことにも挑戦をしています。



【パネル制作】両口屋是清の取材でさらに知ることができたことをパネルで伝えるために、お手伝いをしてくれた実行委員含め3人で行いました。

実行委員第10期生/中学3年 後藤菜来

有松鳴海絞り体験 12/8 10:30～16:00



【当日の様子】当日は大変多くのお客さんにお越しいただき、私たちの目標である「有松鳴海絞りの魅力をより多くの人に伝える」ことにぐっと近づいたという実感の持てる一日でした。一方で、絞りの説明をする際、相手の方の年齢や知識量を推し量りつつ語彙や伝える内容を選ぶことには想像以上に労力を要しました。



【名古屋の文化提唱】今回は有松鳴海絞りをテーマにしましたが、その背景には大きく「名古屋の魅力を伝える」というものがあります。「名古屋飛ばし」という言葉に代表されるように名古屋には何も無いと思われてしまいがちですが、本当にそうなのでしょうか？チュー祭のように、名古屋の将来を担う若者と同じ目線で文化を伝えること、それには大きな意味があります。私たちの活動を通じて、若者の間で名古屋愛が広まっていくことを願っています。



実行委員第7期生/高校2年 倉重彩花

ねじ式さんと語るボーカロイドの魅力 12/8 14:00～14:30



【交渉を始めるまで】ゲストの条件は「名古屋と関わりがある人」。そこで最初に思いついたのが、ボカロP「ねじ式」さんでした。ねじ式さんはボーカロイドの制作や JASRAC で音楽の著作権を守るお仕事などをされています。そんな彼を知っているのは私だけでした。どうしても呼びたい！と仲間を説得し、一から全て担当しました。

【交渉を始めてから】初めての交渉なので何を伝えればよいかも分からず、とにかく自分の気持ちを全て伝えた結果、ねじ式さんから承諾のお返事をいただきました！その後は当日の流の確認など、順調に進みました。



【当日の様子】中学生とのディスカッション形式で、自身の曲作り



についてたくさん質問させていただきました。参加した中学生から「大好きな曲を作っている本人に会えて嬉しかった！」という感想をもらいました。すごく嬉しかったです。今回の大テーマ「つながり」を意識し、これからも交流していきたいと思います。

実行委員第9期生/中学3年 津代あいか

クイズショー「第2回名古屋市検定」 12/8 12:30～13:00



【名古屋市検定、再び】私たちの班では名古屋を沢山のところへ発信できたらと思い活動しています。私は第1回チュー祭で名古屋おもてなし武将隊さんの徳川家康様と関わるがありました。そこで、今回のチュー祭でも家康様をお招きしたいと思い、第2回名古屋市検定を開きました。

【名古屋市検定で増えた夢】一緒に名古屋市検定を担当した、もう1人の高校生は、劇中に台本には書かれていないことをアドリブで行なっていました。私自身はというと人前で立って話すことも苦手でした。ですが、第1回・第2回の名古屋市検定でそれを克服することができ、次このような機会があったら私もこのようになれるといいな、と一つ夢を持つことができました。

【名古屋市検定のこれから】次の名古屋市検定を私ではない誰かがやるかもしれません。その際は私の2回の名古屋市検定への思いを無駄にせず伝え、その思いを伝え続けていってほしいというのが私の願いです。



実行委員第7期生/高校2年 小川叶暖



○×クイズ 12/7,8 10:30~16:00

【○×クイズのシステム】実行委員が名古屋に関する○×クイズを出す→お客さんの選んだ答えのボールプールに隠されたガチャガチャを探してもらい、その中に入っている紙で答え合わせをする→正解者にはステッカーをプレゼント→塗り絵スペースに誘導し、塗り終わったピースを台紙に貼ってもらう。



【時間とのたたかい】チュー祭まであと4か月を切った8月の進捗報告会にて、○×クイズは本当にお客さんに楽しんでもらえるかという観点から元々考えていた案をなくすことにしました。係の4人で意見を出し合い、最終的に案が決定したのは本番2か月前の10月でした。そこからは設営プログラム班の子たちに協力してもらいながら作業を進めました。

【仲間の存在】○×クイズは設営プログラム班の子たちの協力がなければ完成しなかったと思います。準備期間から本番までいろんな面で私たちを支えてくれたみんなに感謝を伝えたいです。

実行委員第7期生/高校2年 尾藤未悠
実行委員第9期生/高校1年 久保田櫻花



名古屋名所すごろく 12/7,8 10:30~16:00

【すごろくブースの目的・システム・工夫】このブースは名古屋にまつわる豆知識やクイズなどを通して、名古屋の魅力を更に多くの人に知ってもらいたいと思い設置したものです。ブースには豆知識、クイズマスを約30問置き、クイズは実行委員に聞くと答え合わせができる仕組みです。すごろくの他に名古屋弁で書かれたおみくじも作成しました。これを来場された方に引いていただき、実行委員が読み上げました。クイズの答えを実行委員に聞くこと、おみくじを実行委員が持ち歩くこと、どちらも実行委員と来場された方との間に会話を生むための工夫です。

【当日までの苦労】メンバーと意見交換する場はオンラインが主でした。例えば案を募るとき、みんなに意見を送ってもらってもそこで会話が途切れてしまい、合意に至らないことが多かったです。他にもたくさんの苦労がありましたが、試行錯誤を重ねたことはとても貴重な経験になったと感じています。

実行委員第8期生/高校1年 長屋美香子



アドバルーン 12/7,8 10:00~17:00

【アドバルーン設置の目的】開催地の久屋大通には色々なものがありますが、その中でもアドバルーンで街ゆく人達の視線をひくことで、より多くの人にチュー祭を知ってもらい、足を運んでもらえたらという想いからアドバルーンを設置することになりました。

【協賛企業様への交渉や準備】アドバルーンを設置するにあたって、第1回チュー祭でもご協力いただいた浅野ゴム商店様へ直接交渉に伺いました。また色々なお話を聞き、アドバルーンの色や当日の動きなどを確認しました。



【アドバルーンについて】アドバルーンの風船には、普通の風船にすると実に700個分のヘリウムガスを入れています。当日準備の際、お手伝いをさせていただいたのですが風船はとても重かったです。重いですが手を離すとすぐに飛んで行ってしまうような緊張感があったので、無事にアドバルーンが浮かび、会場から感嘆の声が聞けた時はとても嬉しく思いました。

実行委員第9期生/高校1年 鈴村葉菜

鳴子台中学校 創作クラフト展示 12/7,8 10:30~16:00



【創作クラフト部との交渉】僕が通っている鳴子台中学校には創作クラフト部という部活動があり、学校の作品展などでいつも展示しています。その作品を他校の皆さんにも見てもらえたらと思い、チュー祭での展示をお願いしました。作品の写真を顧問の先生に撮ってもらい、それを印刷して飾る準備をしました。

【当日の様子】缶パンの販売ブースの隣に作品を展示したので、缶パンを購入していただいた方々に見ていただける機会が多かったです。創作クラフト部の作品をたくさんの方に広めることができて嬉しかったです。

【チュー祭をさらに盛り上げるために】今回、展示発表は鳴子台中のみでしたが、せっかくの機会なので、これからはチュー祭の存在をもっと多くの場所で宣伝し、展示してくださる中学校が増えたらいいなと思いました。

実行委員第9期生/中学3年 平田爽

有松中学校 生徒会活動報告 12/7 13:00～13:10

【発表をお願いした理由】理由は2つあります。1つ目は、前回のチュー祭に参加していたからです。それ以降、毎年夏に行われる生徒会サミットにも参加しています。2つ目は、私の任期の間に行なった自校ならではの取り組みを他校にも共有したいと思ったからです。自校では、南海トラフ地震に備えるために、有志生徒を募って防災についてのオリジナル動画を作成しました。この活動は「名古屋の防災意識を高め



たい」という点で、チュー祭1日目のコンセプトと似ていると思い、発表をお願いしました。

【発表後の反応】後日、みなさんからこんな感想をいただきました。「他の中学校の生徒会がどのような活動をしているのか知れて、よい機会になった。」

「能登の中学生と防災について熟議する機会他では体験できないし、防災について執行部が改めて考えることができ、よい経験になった。」こう言っていただけで、とても嬉しかったです。

実行委員第9期生/中学3年 津代あいか



浄心中学校 生徒会活動報告 12/7 13:20～13:30



【自分の活動を知ってもらおうということ。】自分が中学3年生で参加したこの活動を、同じ年代の後輩にも知ってほしい。そして自分が立てなかった舞台に彼らが立ってほしい。そんな思いから母校である浄心中学校生徒会執行部を訪ねることにしました。

【後輩に「つなぐ」ということ】後輩たちは興味を持って接してくれました。第1回チュー

祭の様子や動画を見てもらい、チュー祭というもの、自分の活動をありのままに伝えました。任期が始まったばかりの新しいメンバーでありながらも、彼らは発表することを引き受けてくれました。

【後輩の勇姿を見届けて。】素晴らしいとしか言いようがなかったです。色々と試行錯誤を行い、練習を重ねてこの舞台にやってきたのだということが発表から伝わってきました。

心から誇れる後輩たち！このバトンをつないでくれることを期待しています。

実行委員第7期生/高校3年 室一盛

志賀中学校 合唱パフォーマンス

12/8 11:40～12:00

【志賀中合唱部と交渉】私が通っている学校の取り組みで春に能登へのボランティアに参加した時、志賀中の元合唱部の友達ができたことをきっかけに、コンタクトをとって出演をお願いしました。

【当日までの調整】当日必要なものやスケジュール、段取りは友達を通して調整していきました。はじめ用意する予定だったキーボードは鍵盤が足りなかったのですが、顧問の先生のご協力で、無事出演していただけることになり、安心しました。



【当日の合唱】3年生が引退して初めての公の場での発表だったそうですが、中学生とは思えないほどの美しい歌声が会場に響き渡り、とても感動しました。私の友達も会場に来てくれてとても嬉しかったです！

実行委員第9期生/高校1年 中安累菜

本城中学校 ジャズオーケストラ

12/8 13:15～13:45

【ジャズ部を誘った理由】元々、私は本城中ジャズオーケストラ部の一員として活動していました。ジャズ部は名古屋市内の中学校ではたったの3校にしかない希少な部活で、よくイメージされる大会がほとんどありません。そのため、学校での定期演奏会を中心に活動をしていました。上手い下手に関わらず自由な演奏ができるジャズの魅力をもっと発信したい。そう思い、ジャズ部を誘いました。



【当日の演奏】チュー祭当日、私はすでにジャズ部を引退しており、久々に演奏を聴きました。1年生はググッと成長した姿を見せてくれました。2年生は粒が揃っていないながらもそれぞれの個性が出ている、そんな演奏でした。中学生が活躍できるお祭りでオファーする側として携われたこと、そしてそのお祭りで私の大好きなジャズ部の演奏を聴けたことが本当に嬉しかったです。

実行委員第9期生/中学3年 中村風沙

桜花学園高校 ハンドベル演奏

12/8 オープニング



【桜花学園ハンドベル部とのつながり】桜花学園、それは私が通っている学校です。ハンドベルの演奏は普段あまり耳にしないと思います。まして「部活動」という形ではもっと聴く機会はないと思います。それほど高校のハンドベルというのは希少で皆さんの身近な楽器ではない…。だからこそ、身近に思っほしい、聴く機会が増えたらいいな、こう思い交渉を進めていきました。

【桜花ハンドベルの想い】ハンドベルは雨風に弱い楽器のため、屋外で演奏することはないそうです。しかし、チュー祭は屋外…。それでも私たちの理念に感心し、ぜひ出演させてほしいとお返事をいただきました。チュー祭のテーマ「つながり」はハンドベルにもあるのだとか。イギリスから渡ってきたハンドベルは、まず名古屋で伝来しました。ハンドベル部がある高校は名古屋にはとても少ないです。このハンドベルを「つなげていきたい」。その想いはハンドベルの天から降りてきたような音色と共に素敵なものでした。

実行委員第7期生/高校2年 岩瀬美保

菊里高校 書道パフォーマンス

12/7 11:40～11:50

【菊里書道部とのつながり】名古屋の中高生が部活動で活躍する姿をみんなに届けることは、地域と中高生との「つながり」を生み、チュー祭のテーマにマッチする！ということで、交渉班ではお声がけする学校を決める話し合いをしていました。そこで出たのが、菊里高校書道部。第1回の時に出演していただいたというつながりがあるからです。一度得たつながりを大事にしたいという思いで、菊里書道部さんと交渉を始めました。そして、今回も出演を快諾していただきました。



【書道部のパフォーマンスが持つ力】チュー祭当日、菊里書道部の堂々としたパフォーマンスが始まる。観客を楽しませる姿勢が伝わってきました。大きな筆に想いを乗せて書いているのだろう、その様子があまりに美しく見入ってしまいます。真っ白だった紙に綴られた文字は「前進」。書道の力強いメッセージに感動したのです。そのパフォーマンスは、たくさん交渉してたくさん反省したゆえに緊張を抱えていた私が、交渉してよかったと心から思えた瞬間でした。



実行委員第7期生/高校2年 岩瀬美保

至学館高校 ダンスパフォーマンス 12/7 11:00～11:30

【お誘いした経緯】私が通っている至学館高校ではダンス部が有名です。私は高校で生徒会に所属していて、生徒会室とダンス部の練習場が隣接しているので、いつも練習を間近で見っていました。至学館のダンス部は毎年全国大会で優良な成績を残しアメリカの世界大会への出場経験もあります。このような自校の素晴らしいダンスをぜひ名古屋の皆様にご覧いただきたいと思い、顧問の先生にお願いし、快諾していただきました。



【当日の様子】ダンス部は1日目の一番手。30分の間で、様々なジャンルの9つの作品を披露してくださいました。始まると同時に通行人の方々がみるみるうちに集まってきます。一つ一つの作品が本格的で、拍手喝采！煌びやかで曲調にあったゴージャスな衣装と、素人でも圧倒される迫力満点なダンスに観客一同釘付けでした。また、ダンス部の発表のおかげで様々な販売や体験ブースの集客にもつながり、よりよいイベント作りになったと思います。



実行委員第7期生/高校2年 小菅あおい

昭和高校 ダンスパフォーマンス 12/8 11:00～11:30

【仲介者としての経験】2日目のステージ発表では、瑞穂区にある昭和高校ダンス部(SDC)の皆さんにパフォーマンスを行っていただきました。SDCには私自身も入部しており、交渉などで関わりました。この発表を通して、感じたことがあります。それは、チュー祭とSDCとのつながりです。言い換えると、地域イベントと学校とのつながりとも言えます。



今回、イベント運営と参加者の間の立場にたち、どちらの想いも経験できました。イベント運営の側からすると、ダンス部の方々がチュー祭をより活気あるものにして下さり嬉しかったです。また、部活動の側からするとステージで披露する機会をいただけて本当にありがたかったです。今後のサミットの活動や部活動では、この経験を活かしていきたいと思いました。

最後に、このステージ発表に関わってくださったすべての方々のおかげで、忘れられない経験と思い出ができました。本当にありがとうございました。

実行委員第9期生/高校1年 木村彩葉

サウスウインドオーケストラ 演奏

12/8 15:10～15:40

【当日まで】サウスウインドオーケストラ(SWO)は名古屋市南区を中心に、「世代を超え地域でつながる音楽会」をコンセプトに活動を行なっている吹奏楽団です。私自身、以前 SWO に参加しており、コンセプトや活動形態がチュー祭の大テーマ「つながり」にマッチしていることから声をかけ、当日の出演へとつながりました。

【当日を終えて】小学生からシニアの方まで団員の皆さんが笑顔で演奏を行い、観客の方も暖かく見守り楽しむステージとなりました。部活動をはじめ、



様々な分野で地域移行が進むなか、SWO のように世代を超えて様々な活動に取り組むことが今度必要とされています。その転換期にある今、私たち中高生には何ができ、何をしたいかを心の中に持ち行動すること、そして世代を超えて協力することにより、まだ見ぬ新たな力やつながりが生まれるのではないのでしょうか。

実行委員第9期生/高校1年 圓地陸来



実行委員有志 陸前高田市絆交流参加報告

12/7 13:40～13:50

【つながりの大切さ】私は中学2年生の時、名古屋市と東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市との交流事業で実際に現場を訪れました。そこでは震災遺構を見学したり当時被災された方々のお話を聞いたりしました。現地の方々が経験を知恵として私たちに伝えてくださったところから、人とのつながりの大切さを学びました。



今回のチュー祭の大テーマは「つながり」です。今回参加していただいた輪島の中学生の方々も、それ以前に被災された方々も、次いつ大きな地震が来ても被害を最小限にできるように、教訓を私たちに語り継いでくださっています。今までも人同士のつながりによって救われた人たちがいて、この先もさらに増えていくと思います。私は、チュー祭が一人一人とのつながりを大切にしていけるイベントとして、第3回も開催できたらと思います。

実行委員第10期生/高校1年 岡野乃愛

中学1年 Taichi さん ギター弾き語り

12/8 14:40~15:00

チュー祭に出演させていただき、ありがとうございました。
優里さんに憧れギターを始めて約1年、僕も人前で歌いたいと思
い応募しました。今回実際に歌ってみて、僕の歌声に足を止めて
くれる人や声援を送ってくれる人がいて、とても嬉しかったで
す。改めて音楽の力のすごさを実感しました。当日は少し緊張し
ていましたが、チュー祭スタッフの方々もたくさん声をかけてく
ださり、堂々と歌うことができました。

僕は、もっと多くの人の背中を押せる人になれるように、日々
練習を重ねていきます。SNSでも歌を投稿しているので、見て
いただけると嬉しいです。ぜひフォローもよろしくお願いしま
す。



Instagram @taic.hi1011

YouTube @tai_ch1

TikTok @tata1011.0



個人発表/中学1年 濱口太一

実行委員第1期生にっしーの言葉

12/8 エンディング

私は中学2年生の時、名古屋市生徒会サミットに参加したことが、この活動に関わるきっかけとなりました。異なる学校の生徒会メンバーと名古屋をよりよくするために議論する環境は、自分にとって魅力的でした。今日集まった仲間たちも、そんな出会いや成長を求めて活動に参加したと思います。

実行委員1・2期生は各分野で活躍し、海外で挑戦する人もいます。ケニアでNPO活動を行うOGの甲斐田真希さんは「自立とは依存先を増やすこと」というメッセージをくれました。ここは学校や家庭以外の「第3の居場所」として自由に意見を交わし、主体的に行動できる貴重な場です。

私はこの活動のOB・OGが10年後、20年後に再び集まり、名古屋から世界を変えるような未来を夢見ています。これからも私たちの活動にご期待ください。



実行委員第1期生/社会人 西尾太一

総合司会 実行委員第9期生/中学3年 津代あいか

【私たちが司会になるまで】チュー祭という一つの祭典を進めるにあたって司会が必要です。そんな司会という役目を、高校生もたくさんいる中、中学生限定で募集していました。高校生に負けず、名古屋を、チュー祭を盛り上げたい！という思いをアピールできるチャンスを逃すまい！と思い、応募しました。

【当日まで】当日の1週間ほど前に台本が渡され、そこでやっとチュー祭当日が近づいてきているという確かな実感が湧きました。様々な方のお名前を読み上げるセリフや発音が難しいセリフがたくさんあったり、台本を早口で読んでしまう癖があったり、読み練習の時から苦戦しました。



【当日の様子】当日は両日ともオープニングセレモニーから始まりました。実行委員だけでなく、一般のお客様さんも来てくださっていて、緊張と嬉しい気持ちが混ざっていました。予測していなかったハプニングもありましたが、相方がいたからこそ、その都度一緒に対応することができました。

総合司会 実行委員第9期生/中学3年 中村凧沙

【司会をしようとした理由】私は中学の執行部時代、いつも盛り上げ役を担当していました。先生からも上手だねと褒められていたので、盛り上げにはすごく自信がありました。これをチュー祭で発揮できたらいいな！そう思い司会を務めました。

【準備・当日】最初に台本を見た時、執行部時代よりも文章量がはるかに多くてビックリしたと同時にワクワクもあり、当日がとても待ち遠しかったです。やりたかった盛り上げや、出演してくださる方々とのお話がたくさんで



きて、とても有意義な時間を過ごせました。



【司会を務めてみて】台本通りの時間で進まず、その場の状況次第でぐるぐると変わって少し大変でしたが、台本が変わる度に「話し合って自分たちで判断して決定する」というチュー祭だからこそその経験もできました。実行委員だからこそ、司会だからこそ、見れた景色、感じた達成感があり、第2回チュー祭に関われてよかったと思いました。

キャップ回収ゲーム 12/7,8 10:30~16:00

【目的】このキャップ回収は、ケニアで NPO 活動を行なっている実行委員 OG の甲斐田真希さんの存在を知り、寄付という形でケニアとつながりたいと思い企画したものです。

【方法】ゲーム感覚で楽しく協力していただくため、ゲームセンターにあるホッケーゲームを参考にしました。台の上に置いたキャップを指で弾き、正面にある穴に通すことで、キャップがボックスへ落ちるとい仕組みです。なお、キャップ回収のための箱の作成には株式会社山下様のお力をお借りしました。



【反省と学び】会場での配置の工夫や、初見の人にも意図が伝わりやすくする工夫が足りなかったなど、反省点はたくさんあります。しかし、それ以上に学びがたくさんありました。どうすれば立ち止まってくれるのか、どうすれば人の目を引き、キャップ回収につながるのかということを試行錯誤したその過程が、一番の学びであり財産であると感じています。

実行委員第8期生/高校1年 長屋美香子



アンケート式ゴミ箱 12/7,8 10:30~16:00

【ゴミ箱について】今回設置したゴミ箱には、一部「名古屋に関するアンケート」を用意しました。ポイ捨ての防止、そして「名古屋」に触れてもらうことを目的としたものです。二つの箱にそれぞれイラストを載せ、好きなようにゴミを捨てる方式（どっちが好き？ーはち丸 or エビザベス）で、大人から子どもまで気軽に楽しんでもらうのではないかと考えました。

【当日の様子】他ブースも担当していたため、一日中様子を確認できていたわけではありません。しかし、ゴミ箱を覗きに行ってみると中身の量にやや差ができていたり会場にゴミが落ちていなかったりと、間接的にでもアンケート式ゴミ箱の効果を実感することができました。こうすることで、一瞬でも名古屋に関して楽しく考えてもらう時間をつくることができます。アンケート式のゴミ箱自体は、第1回チュー祭からあるものなので、今後もぜひつないでいてもらいたいです。



実行委員第7期生/高校2年 倉重彩花

カイロ配布 12/7,8 10:30~16:00

【カイロ配布への思い】私はチュー祭当日まで SNS を中心に広報活動を担当していました。しかし、SNS を運営していく上で広報力が大きくないことを痛感しました。当日は、この素敵な活動内容を一人でも多くの人に知ってもらいたいという思いでカイロ配布をしました。



家康様にもカイロをお渡し

【当日の配布の様子】カイロ配布では、「中学生の祭典」「能登地方」という言葉を特に強調して声出しをしながら配布を行いました。「中学生」というワードに惹かれて足を運んでくださる方が大勢いて、嬉しかったです。

【カイロ配布を終えて】会場で誰が何をやっているのか、来てくれる方々にしっかりと把握してもらえよう工夫が大切だと思いました。この取り組みを周知するには時間がかかるかもしれないけれど、第3回チュー祭のためにも広報は続けていくべきだと思いました。

実行委員第9期生/高校1年 加藤百世

クラウドファンディング

【目的と返礼品について】クラウドファンディングの目的は、チュー祭開催のための資金調達とチュー祭のPRでした。CAMPFIRE というサイトで協力を募り、返礼品にはチュー祭弁当無料券などを設定しました。

【募集ページの原稿作成】募集ページの作成にあたって、まず原稿の作成と写真のレイアウトを行いました。情報共有や写真の共有に課題はありましたが、実行委員から募集したメッセージをつけたことで、思いがよく伝わる内容になったかと思います。



【クラファンページの作成】ページの原稿を元に CAMPFIRE のページを作成しました。メッセージ部分をメッセージカード風にしたり、写真配置を調整したりする作業を行いました。クラウドファンディングの運営とのやり取りを繰り返し、ページの推敲を重ねました。多くの修正点が出現しその度に調整を重ねました。そうして、完成度の高いページを作ることができたと思います。

実行委員第8期生/高校2年 新美健

実行委員第8期生/高校2年 山本凌生

実行委員第5期生/大学2年 辻村侑真

交渉班

【交渉班の役割】

名古屋の魅力を発信し、チュー祭を盛り上げるため、名古屋の地元企業や名古屋でご活躍されている方々に協賛・出演のご依頼をしました。

《私たちの交渉を引き受けてくださった皆様》（敬称略）

○チュー祭弁当

- ・矢場とん（みそかつ） ・あつた蓬莱軒（ひつまぶし）
- ・まるは食堂（エビフライ） ・矢場味仙（台湾丼）
- ・スパゲッティヨコイ（あんかけスパ）

○モーニング

- ・ヤマザキパン（あんぱん） ・スジャータめいらく（コーンスープ）

○アフタヌーンティー

- ・両口屋是清（千なり） ・妙香園（緑茶・玄米茶・ほうじ茶）

○能登特産品販売…商工会議所青年部の方々

○部活動、地域、個人発表の方々

○名古屋おもてなし武将隊 徳川家康

○ボカロP ねじ式

【成果】

○名古屋の魅力を発信することができた！

○中高生のステージ発表を通して、地元での「つながり」が深まった。

○能登との「つながり」もつくることができた。

【課題】

○お客さんから協賛企業について聞かれた際に上手く答えることができなかった。魅力を発信していく立場として、全員が協賛企業についてしっかりと知っておくべき。

○モーニング・アフタヌーンティーの販売の際、お客さんの選べる種類が少なかったり、セットで販売しているものの片方が先に在庫切れになってしまったりしたので、その際もスムーズに動けるようにイメージしておくべき。



4人で4時間かけて刷り上げた
チュー祭弁当 200箱



○販売ブースの人手が足りなかったため、より入念な打ち合わせが必要。

○準備段階での情報伝達不足により、班としてまとまって動くことができなかった。それぞれが個別の仕事を行うのではなく、「みんなでひとつのものを作り上げる」という意識がとても大切。

交渉班リーダー 実行委員第9期生/高校1年 竹内大空

広報班



SNSでの動画投稿

緻密な準備をしましたが、投稿が遅れてしまったことであまり成果が出せず残念でした。1年以上前からクラウドファンディングについて学習し、計画的に進めるべきだったと思っています。宣伝については、SNSであまり印象的な投稿ができなかったと感じています。ですが、第1回の時に比べると活用はできてきたので、これからはSNSについて知識をつけ、投稿頻度を上げていくのが理想だと思いました。

【最後に】

当日のみが本番ではなく、当日を含めた準備期間すべてが本番のようなものでした。その意識を強めていけたらよりよい活動になるのではないかと感じました。

広報班リーダー 実行委員第7期生/高校2年 小菅あおい

【成果】

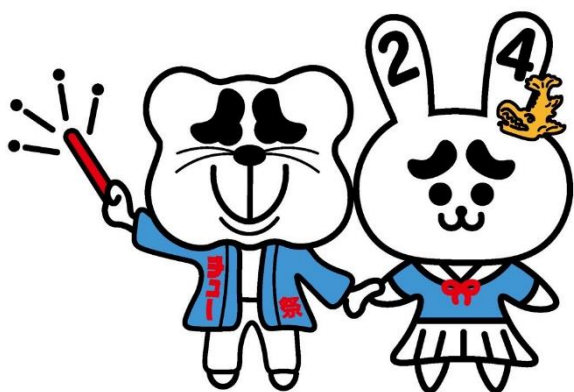
広報班では、クラウドファンディングの実施、SNS (Instagram・TikTok・X) の運営、チラシやポスターの作成、のぼりとアドバルーンの交渉、協賛企業様への取材を行いました。特にSNSを積極的に活用し、チュー祭の歴史や班の紹介、日々の活動の様子などを投稿しました。また、交渉班や設営・プログラム班と連携して、体験ブースの申し込みフォームやアンケートなどをリンクにまとめ、様々な方に知ってもらうことができました。

【反省点を踏まえた改善点】

反省点はクラウドファンディングの開始が遅かったこと、宣伝のインパクトが足りなかったことです。クラウドファンディングでは、返礼品や募集ページなど



有松鳴海絞り体験レクチャー
「こんせい」さんへの取材



チュー祭 マスコットキャラクター

左) 第1回「チューはち」

右) 第2回「はちピョン」



輪島市の中学生とのオンライン交流会

設営・プログラム班

【成果 ～夢の実現～】

設営・プログラム班（設プ）の最大の成果は何といっても、輪島市の中学生をチュー祭に招待できたことです。能登応援企画のページで前述のとおり、私たちは招待について何度も熟議を重ねてきました。輪島のみんなから「チュー祭楽しかった!」という声を聞いたときは、大きな喜びと達成感を得られました。



【課題 ～ワンチーム～】

設プはチュー祭弁当、モーニング、アフタヌーンティー、能登特産品販売を除くほぼすべてのブースを担当しました。また、交渉班や広報班の倍のメンバーを抱える、規模の大きな班です。そのため、設プではブースごとに係を置いて人を割り振り、各々の役割を明確化しました。しかし、これでは各々が自分の係の役割ばかりに気を取られ、班内で情報共有が上手く行

えなかったという反省があります。仲間と協力して物事を成し遂げるにあたって、自分の役割だけをこなしていればよいとする考えがあってはなりません。こまめにかつ定期的なオンラインミーティングの開催や余裕のあるスケジュール設定などで、班としての一体感や帰属意識を高め、全員がすべての内容を自分事として捉えていくことが必要であると感じました。



設営・プログラム班リーダー

実行委員第9期生/高校1年 中村洸太郎

ブングスさんと缶パンの打ち合わせ



前日準備

(防災1000言のツリーに雪吊りの装飾)



連携担当班

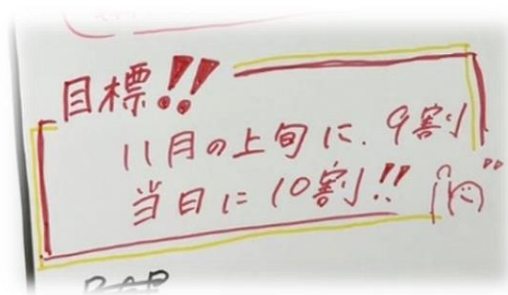


【連携担当班としての活動】

2024年3月下旬からの活動です。オンラインで各班の活動報告をするのが主でした。とはいえども、やはり直接話し合えないと分からないこともあります。オンラインで理解していた内容が、実際話してみると解釈違いだったということも…。そのため、定期的にリアルでのミーティングも行いました。その場では、協賛企業や出演団体（中学・高校の部活動や地域の団体）とのやり取りも含め、共有をしていました。チュー祭直前には、各班のチュー祭当日の役割分担も行っていました。



チュー祭1日目オープニングのアイスブレイク



【連携担当班とは】

チュー祭を開催するにあたり、実行委員は3班（交渉班、広報班、設営・プログラム班）に分かれ、準備を進めていました。連携担当班では各班のリーダーが集まり、進捗状況の共有や総括などを行なっています。各班にはそれぞれ役割があるため、班から班へと依頼や提案をすることもあります。

【チュー祭を終えて】

やはり、自分たちの無力さを感じる場面が多々ありました。各班の活動報告が至らず、全体としての活動を進められないも少なからず。チュー祭直前まで解決していない事も…。もちろん良い経験は沢山させていただきましたが、課題も多くあります。今後、まるねえさんから連携担当班に徐々に引き継ぎされ、より連携担当班の役割が重要になっていきます。第3回チュー祭の時は、第2回を超える連携担当班となるよう、これからの活動も尽力していきます。

設営・プログラム班リーダー

実行委員第8期生/高校1年 中島未結

来場者アンケート 12/7,8 10:30~16:00

【担当ブースの変更】私はもともと、起震車ブースを担当する生徒とまるねえさんの3人で市役所に行き、消防士の方にお話を伺うなど準備を進めていました。輪島の中学生の招待が決まり、起震車体験のプログラムはなくなりましたが、それまで試行錯誤を重ねたこともあり、新しい経験を積むことができました。そして、チュー祭をよりよくするため、来てくれる輪島の中学生のために、できることをすべてしようという気持ちになりました。



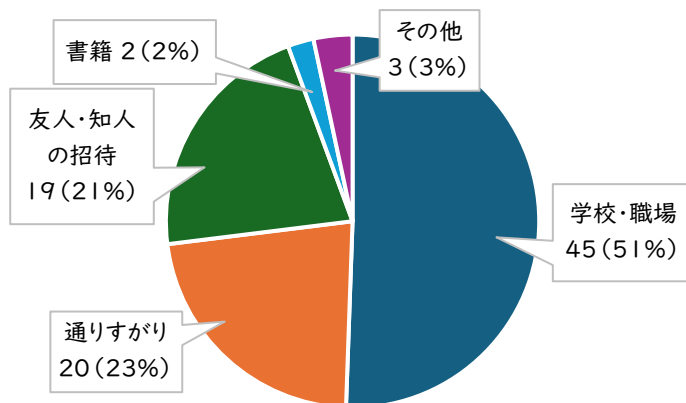
【初めての経験】チュー祭当日の事前・事後アンケートを担当することになって初めて Google フォームを使いました。部活が忙しく他の実行委員には迷惑をかけてしまうことが多かったですが、様々な方の助けがあって完成させることができたと思います。

【チュー祭を終えて】私が自分で作ったアンケートに「楽しかった」や「新しい学びがあった」と答えてくださる方がたくさんいて、会場にいらなくても幸せになりました。私にとって中1からのこの経験はこれから生きていく上でとても刺激的な経験でした。

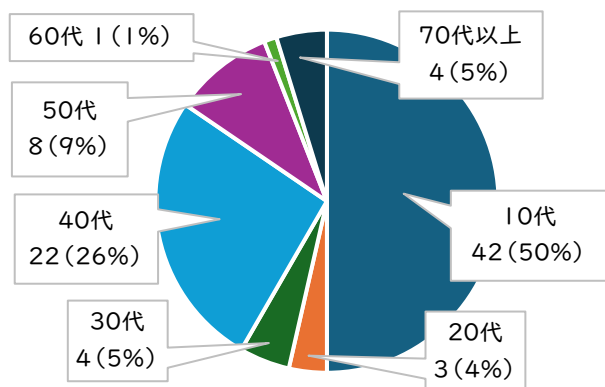
実行委員第7期生/高校1年 池田にこ

来場者アンケートの結果

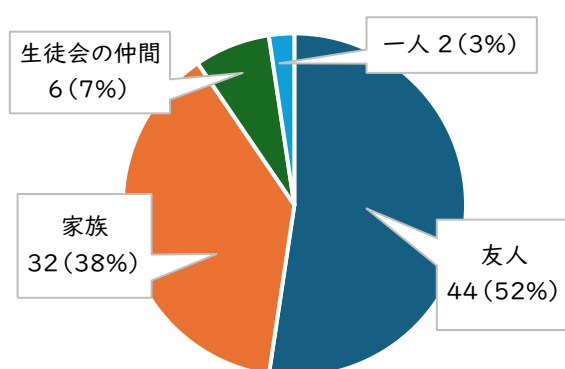
Q1. チュー祭を知ったきっかけ



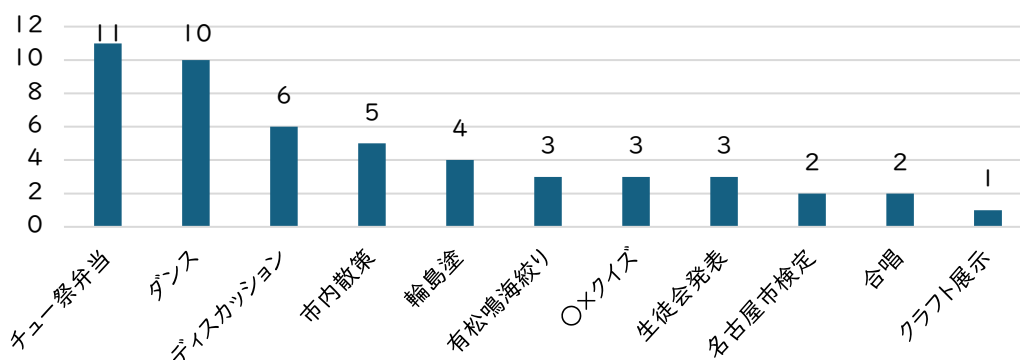
Q2. 年代



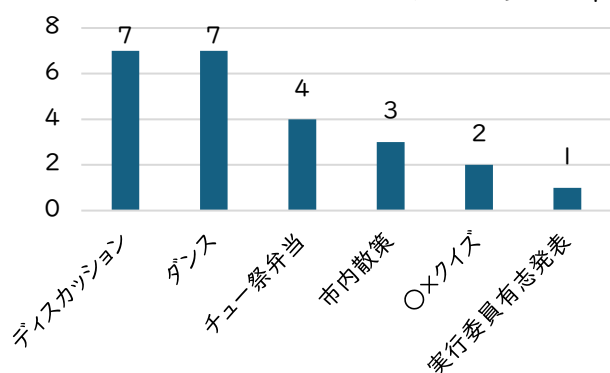
Q3. チュー祭と一緒に来た人



Q4. 楽しみにしていたプログラム



Q5. いちばん印象に残ったプログラム



《理由（一部抜粋）》

- 輪島の生徒にとっても、名古屋の生徒にとっても刺激的な意見交換になった。（ディスカッション）
- 迫力満点でとてもかっこよかった。（ダンス）
- 味噌カツなど本場の味が食べられて非常に満足した。（チュー祭弁当）
- 自分が知らなかった名古屋の名所に行けた。（市内散策）
- 100人で合わせて塗り絵を完成させることが面白かった。（O×クイズ）
- 東日本大震災のあまり聞いたことがない話まで聞けて、ためになった。（実行委員有志発表）

Q6. 感想（一部抜粋）

- 誰でも楽しめるような企画がいっぱいで楽しかった。
- 輪島でできないような経験ができた。色々なところとつながりを持つのはいいことだと実感した。
- 最初は文化祭のようなイメージがあったが、設備や内容がしっかりしていて、楽しんでもほしいという気持ちが伝わった。
- 楽しただけでなく、ディスカッションを通して防災や今後のつながりについて交流できた。
- 名古屋の中学生の人たちと交流ができて嬉しかった。
- 実行委員の人たちが気軽に話しかけてくれて楽しめた。機会があったらまた来たい。
- 中高生だけでこれだけの企画を運営できる実行力は素晴らしいと思った。またつながりましょう。
- 輪島の中学生はいい刺激をもらったと思う。準備段階から本当にお疲れ様でした。
- 時期については検討の余地があるかもしれないが、それ以外の点においてはかなり満足できた。
- どのプログラムも中高生の長期間の努力による素晴らしいもので感銘を受けた。このようなイベントの企画運営は自分たちの学校でも応用できるので、今後も継続してほしいし、より参加者の裾野を広げた活動を目指してもらいたい。

ご講評 名古屋市教育委員会教育長 坪田知広氏

【第2回チュー祭の最大の成果】中学生が中心となって主体的に企画運営するイベントというのは、全国的にもあまり聞いたことがなく、素晴らしいものだと思います。やはり今回は能登の中学生たちを呼ぼうと自分たちで企画し、つながり合えたということが一番の成果ではないでしょうか。素晴らしい実現力です。



【名古屋と輪島の今後のつながり】永遠に続けていってほしいなと思います。あの寒い中で、あれだけ熱い熟議を交わした皆さんですから、防災に限らず、人口減少などさまざまな社会問題について深く考えて、世の中を一緒にによりよくしていけるような活動が、将来できるとよいですね。

【これからの名古屋の中学生に期待すること】名古屋は恵まれていると思いますが、これからの時代たくさんの課題に直面することになります。中学生からサミットの活動に参加している皆さんには、すでに何か気付いていることがあるかもしれません。その危機感をもっと多くの中学生たちに共有して、自分らが未来の名古屋を救うんだ！日本を救うんだ！という気持ちで、ムーブメントを巻き起こしてもらいたいと思います。

ご講評 京都芸術大学客員教授 寺脇研氏

【第2回チュー祭の最大の成果】先輩たちが考えたイベントを受け継いで「2回目」を開催できたということは、大きな成果だと思います。チュー祭は中学生が中心となって行うので、前回とはメンバーが大きく変わっています。大切なのは、その活動を続けていけるかということです。チュー祭が1回限りの催しになるのか、後輩たちにも受け継がれていく催しになるのか、今回はその分岐点であったと思います。



【サミットの成長】初めてサミットを実施した2013年のことは今でも覚えています。最初はまったく先が見えないところから手探り状態でスタートしました。2015年に中学生がチュー祭を開催しようと提案したとき、私はとても驚きました。中学生がこれだけ大きなことをやるというのは、それまで聞いたことがなかったからです。正直、必ず成し遂げられるとは思っていませんでした。しかし、毎年サミットに参加する人が変わっていく中で、最初の先輩たちの思いが脈々と受け継がれ、2021年に実現に至りました。中学生が学校の枠を超えてみんなで集まる機会はなかなかありません。名古屋市生徒会サミットの活動は、世界に向けて誇れるくらいのものだと思います。

【熟議の魅力とサミットのこれから】結論が必ず一つにならなくてもよいから、多様な意見を自由に言い合えるというのが、熟議の特徴であり魅力であると思います。最終的なイエス・ノーにとらわれないこの熟議は、中学生によく合っていると感じます。これから小学生や大人も入れて熟議しようということになると、サミットやチュー祭の存在が世代を超えてさらに広がっていくかもしれません。中学生からの呼びかけで始まって、あらゆる市民が参加できる熟議の場が生まれるなら、本当に素晴らしいことですね。

実行委員まとめ（ふりかえり）の会

第2回チュー祭を振り返り、今後の輪島市との交流や第3回チュー祭の実現へとつなげていくために、実行委員によるまとめの会を行いました。

○2024年12月22日(日) まとめ会①「成果と課題」

○2025年1月5日(日) まとめ会②「課題を解決するために」

ー成果と課題ー

【交渉班】

成果

■名古屋の魅力を発信できた。

○名古屋の名店からおかずを提供していただき、オリジナル弁当を販売できた。

第1回の時に発案されたチュー祭弁当は、今や「チュー祭」の目玉になっている。

○今回はチュー祭弁当に加えて、モーニングとアフタヌーンティーも販売できた。

販売テントは1日中、盛況だった。

■ステージ発表では、多くの中学校や高校に加えて、地域や中学生個人も出演してくださった。

○母校や友達の学校に直接お願いし、出演までこぎつけた。

○ゲスト出演では、どうしても来てほしいアーティストに直接DMを送って出演が実現し、当日のプロデュースも行えた。中学生最後の年に成功体験を得た。

課題

■モーニングとアフタヌーンの種類が少ないように感じた。温かいスープやお茶は人気だったので、種類を増やしたらもっと売れたと思う。セット販売に限定せず、単品でも販売できると良かった。

■販売ブースの実行委員がかなり少なく、ドタバタした。

■実行委員間の情報伝達不足が目立った。特に、協賛企業については全員があらかじめ詳しく知っておく必要がある。特定のお店について質問され、上手く答えられなかったという反省がある。

【広報班】

成果

■SNSで定期的、継続的に情報発信ができた。

■両口屋是清さんの歴史や思いをパネルにして発信することができた。

■クラファンが資金集めと宣伝につながった。

■写真係が複数人いて、素材集めがしやすかった。

課題

- 宣伝不足があり、集客につながらなかった。
 - 第2回チュー祭のアカウントは継続して運用し、第3回に引き継ぐ。
 - SNS 以外での宣伝（紙のチラシ、電車広告など）も行う。
- SNS 運用の人数不足により、特定の一人への負担が大きかった。
 - 役割分担が必要。
- 両口屋是清さんのパネル製作が人数不足により時間ギリギリだった。
 - 自分の役割でなくても臨機応変に手助けが必要。
- クラファンの公開が遅れてしまった。
 - 期限を定め、しっかりと共有する。
- クラファンをあまり知ってもらえなかった。
 - 宣伝強化のためのミーティングを定期的に行う。
 - 同じ班内における係間の情報共有（内側の共有）が不可欠。

【設営・プログラム班】

成果

- 輪島の中学生と名古屋の中学生の熟議が実現した。
 - 防災や復興について一緒に考えてアクションプランを作成し、発表できた。
- 募金箱を設置したことで、来場者から輪島市へのエールをいただけた。
- 自分自身も名古屋について深く知れた。地元のことも意外と知らないことが多いと実感した。
- 接客で来場者が笑顔になってくださった。
- 来場者に中学生の主体性を褒めていただけた。
- 当日の宣伝や声かけから地元の方々との会話が生まれた。

課題

- まるねえさんはじめ大人に頼ることが多かった。
 - より主体的で積極的に企画運営を行いたい。
- スケジュール管理が甘かった。
 - 夏休み中にもっと進めたかった。早め早めの行動を心がける。
- 当日のシフトで各々の負担に偏りがあった。
- 強風対策ができていなかった。
- 動線を意識した会場レイアウトが不十分だった。
 - 人通りの多い通路側のテントが白布で隠れているのは残念だった。
- 会場の余白が多かった。来場者から見て、何をやっているのかわからないという状態があった。
 - マップが載った紙のパンフレットを配布するなど。
- ステージ終了後に来場者を引き止めるための声かけやアピールが足りなかった。
- 12月 は寒すぎた。

【全体】

成果

◎大テーマ「つながり」の達成

- 輪島の中学生とのつながりが生まれた。
- 名古屋の中高生はじめ、地元企業や地元の方々とのつながりが広がった。
- 名古屋の魅力を地元の方々にも輪島の中学生にも発信できた。

課題

- 広報・宣伝
- スケジュール管理
- 情報共有
- 役割分担
- 輪島市の中学生と今後どのように交流していくか
 - まずはアクションプランを実践する。
 - 一年に一度はオンラインで交流したい。
 - 持続可能なつながりとするためには、継承が必須。
 - 窓口役（輪島市の校長先生と連絡を取り合う実行委員）を次の世代に引き継いでいく。
 - 4年後のチュー祭に再び輪島市の中学生を招待したい。
 - 輪島市の中学生と一緒に企画をつくりあげることができたら嬉しい。
 - 相互に交流する（今度は私たちが輪島に行きたい！）。
 - 私たちから一方的では良くない。
 - お互いの魅力を発信したい。
 - 中学校の生徒会新聞などで広める。
 - 今回は名古屋が輪島の発信をしたが、今度は輪島が名古屋の発信をしてくれると嬉しい。
 - アクションプランの内容をもとに、名古屋の中学校のスクールランチで能登にまつわるメニューが取り入れられるように交渉やプレゼンなどを行いたい。
 - 輪島市の中学生にアンケートを取る。
 - 《内容》
 - チュー祭・お楽しみ会で楽しかったこと、感想。
 - 今回の経験が自分にとってどう影響したか。
 - 今後、交流を続けていきたいと思うか。
 - アクションプランをどのように実践したいか。
 - 2028年のチュー祭を後輩たちに勧めたいか。

一課題を解決するために一

■広告・宣伝

- 第2回チュー祭のアカウントをそのまま使い、継続性を持たせる。
- SNS を常に更新する。
- SNS アカウントのパスワードなどの引き継ぎは確実に行う。
- 出身中学校などに出向き、実行委員が中学生に直接 PR する機会を作る。
- 各班で宣伝してほしいことをまとめる。
- 当日の集客につながるようなアナログの宣伝を行う。

例) 街頭配布のビラ、地下鉄の車内広告、駅構内の掲示板

→いずれも許可が必要で費用がかかるため、早め早めに準備する。

■スケジュール管理

- 春の全体会後に各班で当日までの目標や To Do リスト、スケジュールを決める。
→先を見通せるようにする。
- 締め切りを細分化し、短期的な達成目標を設ける。
- スケジュールを誰にでも明確にする。
→日程調整は LINE の機能を利用し、決まった予定は共有カレンダーなども利用し周知する。

■情報共有

- Google Drive に資料を保管し、他の班の情報も確認できるようにする。
- オンラインミーティングで定期的に各々の進捗共有を行う（毎週末 30 分程度）。
- 連携担当班で共有されたものを各班にもしっかりと共有する。
- 他の班から共有されたものに対して、きちんと意見を言う。
→フィードバックを大切にす。もっと声を出す。

■役割分担

- 当日のシフトとブースごとの「マニュアル」を1か月前までには作成し、
トラブルを想定したシミュレーションや対面でのリハーサルに時間を割けるようにする。
→自分の役割にとどまらず、他の人の動きも把握する。
- 一人一人の所属や役割を明確にし、手持ち無沙汰の人をつくらない。

■その他

- 年齢を気にせずに話し合えるようにしたい。
- 中学生だけでの話し合いの場が欲しい。

名古屋市会正副議長懇談会

実行委員が名古屋市会正副議長と懇談し、第2回「チュー祭」の成果報告を行いました。

日時：2024年12月26日(木) 10:00～12:00

場所：名古屋市役所東庁舎2階 議会運営委員会室

参加者：名古屋市会議長 田中里佳氏 名古屋市会副議長 田邊雄一氏

名古屋市生徒会サミット実行委員（9名） 有松中学校生徒会執行部（3名）

1. 第2回中学生の祭典「チュー祭」成果報告と感想

はじめに、実行委員の中村洸太郎が正副議長に向けて今回のチュー祭の成果報告を行い、輪島市の中学生を招待しようと思ったきっかけや、それが実現するまでの長い道のりについて話しました。

続いて、有松中学校生徒会長の村上暁之介さんがチュー祭でステージ発表を行なったときのことについて話してくれました。有松中学生徒会では防災への啓発動画を作成し全校に放送することで、地震が身近なものであることを伝える取



り組みを実施したそうです。名古屋の防災意識を高めたいという思いは、今回のチュー祭の目的ととてもよく似ています。

その他、中学生実行委員から、どうしても呼びたかったゲストに自ら交渉に挑んだことや、2日間の総合司会を務めた苦勞と達成感、輪島市の中学生との熟議を通して感じたことなどについて話がありました。



2. 懇談 ～中高生と正副議長が名古屋の未来を熱く語り合おう！～

中高生の質問に正副議長が回答する一問一答形式で懇談を行いました。

《県民の日学校ホリデー（市立と県立の格差）について》

Q. 私は市立高校に進学したのですが、県立高校と違って11月に県民の日の休みがありませんでした！愛知県立と名古屋市立、大きく見ればどちらも同じ公立なのに、格差が生まれてしまうのはどうなのでしょう？

A. すごくいい指摘。議会でも非常に議論になりました。ただ、休めない親御さんにとって負担が増えるという見方もある、双方の意見を汲み取ってあげなければ

いけません。今回は大人だけで決めてしまっ、子どもたちの意見をもっと聞きたかったと反省していたところです。今後また議会で議論されるテーマの一つになると思うので、その際は高校生からこんな意見もあるよと伝えておきます。貴重な意見ありがとうございます。（田中議長・田邊副議長）



《名古屋市の防災について》

Q. 私は中学2年のとき陸前高田市との交流事業に参加したことで防災に関心を持ちました。そこで名古屋市のサイトで防災への取り組みをたくさん調べたのですが、南海トラフ地震が来るとわかっている中、本当に防災はこのままでいいのかなと思いました。

A. 防災は私の感覚で言うと国も名古屋市も相当やっています。ただ、それが知られていない。知ろうという意欲を地域の方に持ってもらわないといけませんが、そのためにはこちらのPRももっと必要だなと感じています。大事なことは、住民が防災に対する意識をしっかりと持って、自分の地域には何があってどう使うのか、災害が起きたらどのように助け合っていくのかということをよく考えることではないかと思います。(田邊副議長)



《意見の取り入れ方について》

Q. 私の中学校では、全校生徒からの意見を取り入れるために執行部が色々と試行錯誤をしています。名古屋には子どもから市や議会に対して意見を投げかけられるようなものはありますか？

A. 名古屋市は夏休みに「子ども市会」というものを開催していますが、小学校高学年だけが対象で



やはり人数も時間も限られています。その他にも一応、市民の方が意見をメールで送れるようになっていますが、皆さん普通に感じている素朴な疑問程度ではいちいちメールしないですね。なので、今回のような懇談会の機会はすごく理想的です。中高生の何気ない一言をお聞かせいただける機会があるのはありがたいんです。(田中議長)

3. 名古屋市会議長室・本会議場見学

小一時間の懇談を楽しんだ後は、正副議長が議長室と本会議場を案内してくださいました。

名古屋市会の本会議場は全国でも珍しい円形で、「議論が丸く収まるように」という願いが込められているそうです。

田中議長、田邊副議長、ありがとうございました！



【協賛企業・協賛店】（順不同・敬称略）

- ◆ ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
- ◆ 株式会社矢場とん
- ◆ 株式会社中店（あつた蓬萊軒松坂屋店）
- ◆ まるは名古屋株式会社
- ◆ 株式会社味仙（矢場味仙）
- ◆ 有限会社スパゲッティヨコイ（住吉本店）
- ◆ 株式会社妙香園
- ◆ 株式会社両口屋是清
- ◆ 山崎製パン株式会社
- ◆ 名古屋製酪株式会社（スジャータめいらくグループ）
- ◆ 山建商事株式会社
- ◆ 株式会社山下
- ◆ 株式会社オーシャングローバルネットワーク
- ◆ 株式会社谷口看板店
- ◆ 株式会社アババイ
- ◆ 株式会社カムロ
- ◆ 株式会社 AFFECT
- ◆ スロメ nagoya
- ◆ 株式会社ニュータス
- ◆ 株式会社ブングス

【協力企業・協力団体】（順不同・敬称略）

- ◆ 有限会社こんせい
- ◆ 株式会社新城（漆陶舗あらき）
- ◆ 七尾商工会議所青年部
- ◆ 石川県商工会議所青年部連合会

おわりに

この報告書を作成するにあたり、実行委員の生徒たちが自ら原稿を集め、執筆者一人ひとりと内容を精査し、まとめるところまで行いました。

この事業は学校の授業の一環でも学校行事でもなく、民間の1団体が行っているイベントに過ぎません。しかし、2015年に6名の中学生が立ち上げた名古屋市生徒会サミット実行委員会は、連綿とその理念を受け継ぎ、自分たちの活動を自分たちの手でまとめ、お世話になった方々にお送りしたいという感謝の気持ちと、主体的に企画運営してきた自信と誇りに満ちています。「大変だろうから最後のまとめはこちらでやるよ」と言った私に、実行委員の子どもたちから「報告書は最後まで作らせてもらえませんか？」とお願いされました。

私は担当者として、このような子どもたちに出逢い、活動のお手伝いをさせていただけたことに心から感謝しています。

2025年1月吉日

名古屋市生徒会サミット担当

教育支援協会東海 専務理事 西尾 真由美



報告動画

ロングバージョン、ショートバージョンの2種類の報告動画を作成いたしました。下記のQRコードを読み取っていただき、ぜひご覧ください。



お問い合わせ先
NPO 法人 教育支援協会東海 代表理事 本多 功 専務理事 西尾 真由美 名古屋市西区南川町 297 番地 TEL 052-505-4900 / FAX 052-506-9078 E-mail : info@kyoikushien-tokai.org URL : http://kyoikushien-tokai.org